

☆天文の基礎知識

——— 今年（ことし）は満月（まんげつ）が「中秋の名月」に ———

地球（たいよう）が太陽（まわ）の周りを、また、月が地球の周りを円ではなく少し細長い楕円形（だえんけい）の軌道（きどう）を通りながら回っているために、スピードが少し変化（へんか）します。そのことが主な原因（おも）で、月が1回満ち欠けるのにかかる日数は、1年間を平均（へいきん）すると約29.53日ですが、もう少し長くかかったり短い場合（いっぺい）があるので、月が全部欠けた新月（しんげつ）から満月になるまでの日数（いつてい）も一定ではありません。

また、旧暦（きゆうれき）（太陰太陽暦）では月が新月になる日を1日と定め、8月には、それから15日目の月を「中秋の名月」としています。

上に書いた新月から満月になるまでの日数が一定でないことや、新月になる時刻（じこく）が1日のうちまちまちであるなどの関係で、「中秋の名月」と言われる旧暦8月15日の月が完全な満月でなく、「満月」が「名月」の日より1日か2日遅れた年が昨年まで7年（なな）続（つづ）いていました。

しかし、今年（ことし）はそれがほぼ一致（いっし）して、晴（は）れば「名月」と言われる日（ふつうの暦（こよみ）の9月21日）には右の図のようなきれいな満月（まんげつ）を見ることができ（み）るでしょう。



- 1 神酒（みき）の海
- 2 豊（ゆたか）の海
- 3 静（しず）かの海
- 4 危（きき）機の海
- 5 晴（は）れの海
- 6 雨（あめ）の海
- 7 嵐（あらし）の大洋
- 8 湿（しめ）りの海
- 9 雲（くも）の海

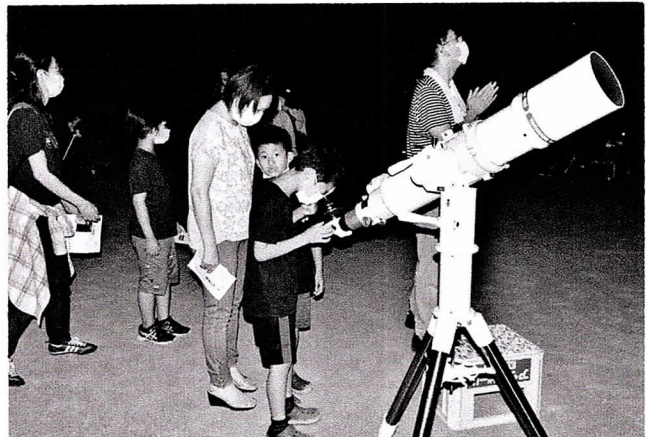
☆35年ぶりに、東英小で『星を見る会』

7月17日（土）の夜、東英小学校（とうえい）で「星（ほし）を見る会」が行（い）なわれました。記録（きろく）を調（しら）べてみると、東英小学校（とうえい）での開催（かいさい）は、昭和61年に市教委（しきょうい）が開催（かいさい）した移動（いどう）星空（ほしぞら）観望（くわんぼう）会（かい）くらい、なんと35年（さんじゅうご）ぶり（ぶり）でした。

はじめ西（にし）の空（そら）ひくく金星（きんせい）が見（み）えていたのに、急（い）に雲（くも）が広（ひろ）がってきて心配（しんぱい）されましたが、すぐ（すぐ）にまた晴（は）れわたり、半月（はんげつ）（上弦（じょうげん）の月）の欠（か）けぎわにクレーター（くわてーた）（あなぼこ）がたくさん見（み）えて、天体望遠鏡（てんたいぼうえんきょう）で初（は）めて見（み）た親子（おやこ）が「わーすごーい！」と感動（かんとく）していま（いま）した。

ここ（ここ）は市内（しん）の小学校（しょうがっこう）で一番（いちばん）星空（ほしぞら）がきれい（きれい）な場所（ばしょ）。月（つき）明（あ）かりに照（あ）らされた山（やま）あい（あい）に、夏（なつ）の大三角（だいさんかく）や北（きた）斗（とう）七（しち）星（せい）などがとも（とも）にきれい（きれい）に見（み）えていま（いま）した。子ども（こども）たち（たち）に人（にん）気（き）の「ちゅうせん会（かい）」では、本（ほん）物（ぶつ）のいん石（いんせき）など（など）の天文（てんもん）グッズ（グッズ）がいっぱい（いっぱい）当（あた）りました。とち（とち）ゅう（ゅう）に国際（こくさい）宇宙（うちゅう）ステーション（ステーション）も観（くわん）察（さつ）でき（でき）るなど（など）、忘（わす）れられ（られ）ない宇宙（うちゅう）と（と）の会（あ）い（い）のひ（ひ）と時（とき）にな（な）ったよう（よう）です。

この日（このひ）の参加（さんか）者（者）は、幼（よ）児（児）3人（にん）・小（しょう）学（学）生（せい）17人（にん）・大（だい）人（にん）17人（にん）の合（あ）計（けい）37人（にん）でした。学校（がっこう）の先（せん）生（せい）方（かた）にはたいへん（へん）お世（せ）話（わ）にな（な）りあ（あ）りがた（た）うござ（ざ）い（い）ました。



月面（げつめん）のクレーター（くわてーた）が見（み）えすぎ（すぎ）てビク（ビク）リ（リ）（13cm 望遠鏡）



今回（こんかい）も（も）り（り）上（あ）が（が）ったちゅうせん会（かい）。何（なに）が（が）当（あた）った（た）の（の）かな（かな）？